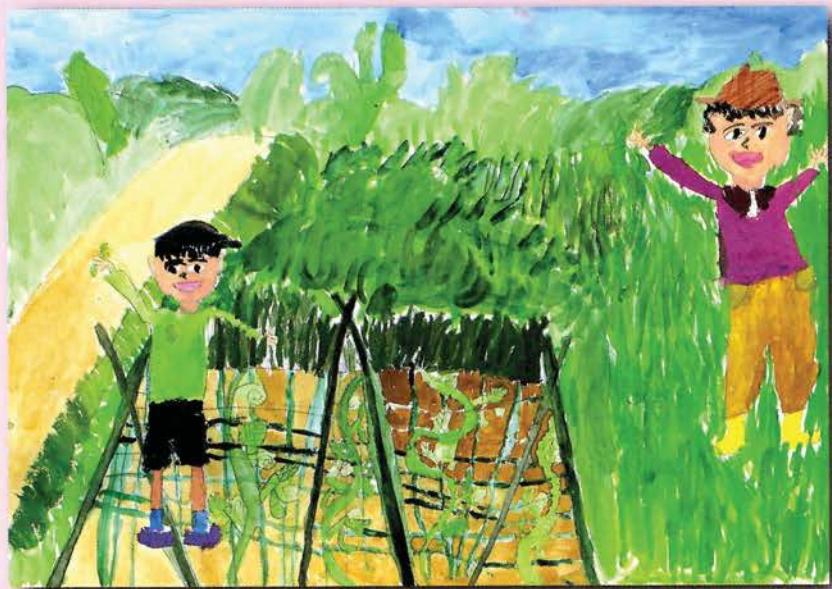


# むつみ

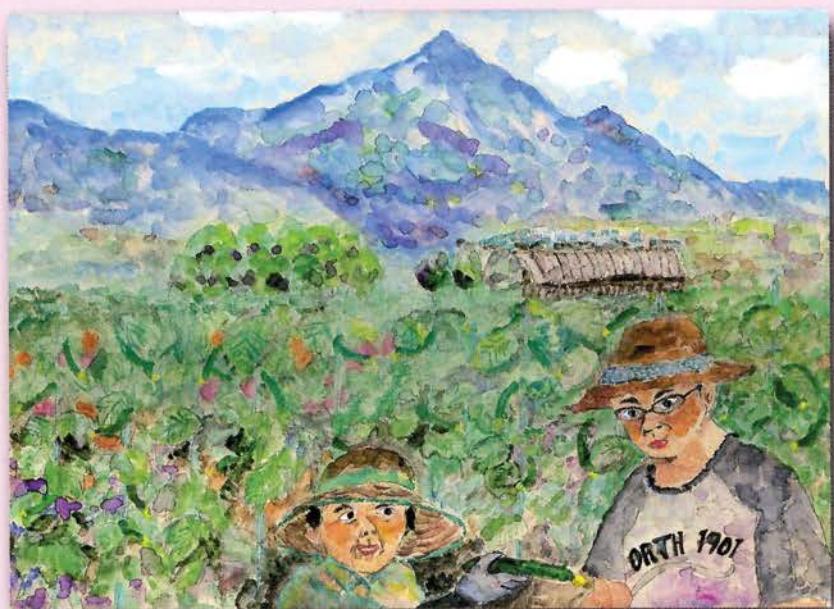
第56号 2010. 1



最優秀作品〈低学年の部〉「できた　できた」



最優秀作品〈中学年の部〉「ありがとう」

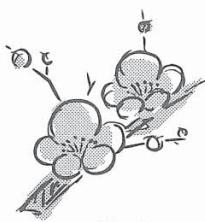


最優秀作品〈高学年の部〉「ばあちゃんの手伝い」

福島県土地改良団体職員連絡協議会

## 目 次

年男・年女	水土里ネット社川沿岸	23	23
桜街道	福島県土地改良団体職員連絡協議会	1	1
新年のご挨拶	福島県土地改良事業団体連合会	2	2
新年のごあいさつ	(水土里ネット福島)		
感謝の気持ち	会津大川土地改良区	24	23
会 長 柳 内 喜久子	阿 部 美紀子		
第三十三回総会及び業務研修会	佐 藤 公 郎		
専務理事 茂木功一	佐 藤 初 子	25	23
第三十二回全国土地改良大会	『水を汚す油も良く見れば虹色』	3	3
支部だより	飯館村土地改良区		
永年勤続	川 村 初 子		
永年勤続表彰三十年受賞によせて	『水を汚す油も良く見れば虹色』		
伊達西根堰土地改良区	25	23	
会津宮川土地改良区	24	23	
石川博利	23	23	
諫訪美彦	23	23	
「勤続十年を迎えて」	23	23	
水土里ネット福島	23	23	
「30年いろいろありました」	23	23	
齋藤孝美	23	23	
新会員のみなさんより			
土地改良区職員として	江花川沿岸土地改良区	26	23
安田勝男	26	23	
土地改良区職員となつて	矢吹原土地改良区	26	23
井上葵裕	26	23	
土地改良区職員となつて	矢吹原土地改良区	26	23
関根拓也	26	23	
土地改良区職員になつて	会津北部土地改良区	26	23
遠藤龍輔	26	23	
視察研修に参加して	27	23	
小川町土地改良区	27	23	
佐藤あや子	27	23	
後藤学	27	23	
平成21年度視察研修	27	23	
平成21年度視察研修を終えて	27	23	
高郷土地改良区	27	23	
21	23		
20	23		
21	23		
21	23		
22	23		
永 峯 真			
表紙写真			
ふくしま むらの輝き2009 絵画コンテスト			
最優秀作品			
低学年の部	引地晋平君		
中学年の部	富塚彩友さん		
高学年の部	畠幸之介君		
県外研修に参加して	布藤堰土地改良区		
会津宮川土地改良区			
川井秀子			
県外研修に参加して			
会津宮川土地改良区			
川井秀子			
永 峯 真			



## 新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 柳内 喜久子

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、お健やかに輝かしい新年を迎えたことと心からお慶び申し上げます。

また、平素より当協議会に対しまして特段のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、第三十三回総会を七月十六日に福島市飯坂町「摺上亭大鳥」において開催いたしました。永年勤続者二十六名の表彰を来賓ご臨席のもと行えましたことは、本協議会の喜びであり、表彰者のみならず会員皆様方の励みともなることだと思います。健康に留意され、ますます御活躍くださいますようご祈念申し上げます。

皆様のご協力により、提出した六議案についても満場一致でご承認いただき、総会を無事終えることができましたことお礼申し上げます。

また、県外視察研修を九月十日、十一日に会員二十二名の参加により、宮城県の迫川沿岸土地改良区、河南矢本土地改良区において実施いたし

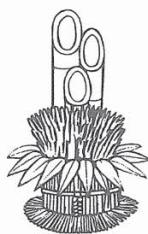
ました。それぞれの土地改良区とも、抱えている課題や問題を役職員とともに努力し、いろいろな手法で見事に完遂されるなど、何れも有意義な価値ある研修となりました。

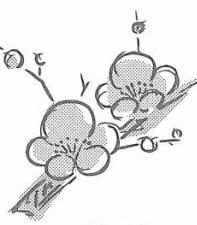
今後も皆様の要望に沿った先進地研修を実施する計画ですが、毎年参加人数が少ない状況です。日々の業務でご多忙とは思いますが、研修で得ることも多いと思いますので、ぜひご参加ください。

ところで、昨年は政権交代により事業仕分けが行われ、見通しが解らない等さまざま不安な状況であります。さらにドバイ不況によりデフレが起り、不景気が続くなど、大変な時期に直面しております。農業を取り巻く状況は益々厳しいものですが、私達は今後の施策状況を把握し、組合員の方々に理解、協力して頂くよう鋭意努力していかなければなりません。

私も会長に就任し、一年を務めさせて頂きましたが、皆様方の温かいご支援、ご協力の賜と感謝しております。今年は役員改選に当たります。それまで精一杯残りの在任期間を全うし努めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、新年の挨拶いたします。





# 新年のごあいさつ



水土里  
みどり  
ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

専務理事 茂木功一

福島県土地改良団体職員連絡協議会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様には、ご健闘で輝かしい新年を迎えたことと心からお慶び申しあげます。

また、本会の業務運営、農業農村整備事業の推進につきましては、特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、昨今の農業農村を取り巻く状況は、国際的な食料需給が中長期的に逼迫すると見通されるなか、安全・安心な国産農産物に対する消費者ニーズの高まりがあるものの、農業従事者の急激な高齢化や担い手の減少などにより、耕作放棄地の増大が進行しております。

また、このことは、病害虫や防災上の問題ばかりではなく、地域の農地・農業水利施設の維持・保全の粗放化までをも引き起し、極めて深刻な問題となつております。

食糧の需給バランスを安定させ、食糧の安定供給を図るためには、優良農地を確保するとともに、耕作放棄地の発生を未然に防止、解消することが強く求められております。

このような問題を打開するためには、消費者に自然・安全・本物の農産物を届けるという農業の本来の使命を果たしながら、低コストで農業収益を確保することが出来る、ほ場の大区画化、さらには輪作体系の確立に向けた暗渠排水などによる水田の汎用化を最優先で構築していくことが必要

であり、このことは、当然のことながら、担い手農家や集落営農の育成がこれまで以上に進展し、更なる地域営農の活性化に繋がっていくものと確心しております。

このため、本会といしましては、食料の安定供給を支えるための生産基盤の整備はもとより、農地を有効利用するための水土里情報の活用や施設管理の省力化を図るためのストックマネジメント事業に積極的に取り組んで参ります。

また、農地や農業用水などを適切に保全していくための「農地・水・環境保全向上対策」につきましても、地域の共同活動への支援や環境に優しい営農を推進するための水質モニタリング調査をはじめ、学校教育とも連携しながら、ともに様々な活動を進めて参ります。

今後とも、本県農業の持続的発展と快適な農村生活空間の実現に向けて、引き続き、国、県、市町村、そして土地改良区との連携の下、従来の各種施策を積極的に推進するとともに、農村資源の有効活用と地球温暖化対策に寄与することができる小水力発電等の新たな分野についても積極的に取り組んで参りたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本会といたしましても、これまで以上に職員の技術力の向上に努め、いつも会員の皆様のお役に立てるよう体制を整えておりますので、引き続き、本会のもつ技術力や情報、そしてネットワークを積極的にご活用いただければ幸いに存じます。

ご承知のとおり、昨年末に平成二十二年度予算が閣議決定されました。土地改良事業費は残念ながら半分に大幅減額され、その内容も現在のところ公表されておらず動搖が広がっておりますが、会員の皆様には地区内の農業用施設の状況や農業の実情を充分に把握され、十分な裏付けを持つて地域の声を発信していく必要があると考えております。

このため、本会も総力を上げて皆様方と一緒に地域営農の更なる推進に取り組む所存でありますので、ぜひ、皆様方からのご意見・ご相談等をお寄せいただきたいと思います。

新しい年明けは、大変厳しいスタートとなりましたが、皆様と一丸となつて本県の農業の振興と農村の活性化の為に頑張って参りますので、尚一層のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

結びに、福島県土地改良団体職員連絡協議会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして新年のご挨拶といたします。

## 第三十三回総会

福島県土地改良団体職員連絡協議会第三十三回総会は、平成二十一年七月十六日(木)午後一時三十分より福島市「摺上亭大鳥」において開催された。



永峯副会長(会津宮川土地改良区)の開会宣言、柳内会長(小川町土地改良区)の挨拶の後、永年勤続表彰が行われ、表彰状の授与及び記念品が贈呈された。

表彰された方は別表のとおりです。

受賞者の皆様のますますのご活躍をお祈りいたします。



議長に阿武隈川上流土地改良区の宮田氏が選出され、挨拶後、議事に入った。

議案第1号「平成20年度事業報告について」、議案第2号「平成20年度収支決算承認について」が一括議題として出され、事務局の説明、小島監査員(柳津町土地改良区)の監査結果報告の後、原案どおり承認された。

議案第3号「平成21年度補正予算



(案)について」、議案第4号「平成22年度会費・協賛金の額及び徴収方法(案)について」、議案第5号「平成22年度事業計画(案)」、議案第6号「平成22年度収支予算(案)について」は事務局の説明後、いずれも原案どおり承認された。また、毎年、収入より支出が超過状況であることから、来年度以降総会時の記念品の廃止及び県外研修の隔年実施が提案され、承認された。

総会は遠藤副会長(安積疏水土地改良区)の閉会宣言により終了した。

表彰式後、福島県土地改良事業団体連合会県北支部長武藤様、福島県土地改良事業団体連合会専務理事茂木様より来賓祝辞をいただいた。

# 特別功労者・永年勤続者表彰

特別功劳者

東根堰土地改良区

三十年勤続

## 伊達西根堰土地改良区 会津北部土地改良区

二十年勤続

月形中野土地改良区

十年勤統

安積疏水土地改良区  
会津宮川土地改良区  
会津宮川土地改良区  
福島県土地改良事業団体連合会

藤沢彦教

石神正雄



# 職員業務 研修会

総会終了後、業務研修会が行われた。

水土里ネット福島茂木専務理事より「福島県の農業について」、水土里ネット福島谷課長より「農地有効利用支援整備事業について」講演をいただいた。

二日目の現地研修は、福島市荒川大暗渠砂防堰堤の見学を行った。

業務研修会のアンケート結果は別紙のとおりです。



水土里ネット福島 谷課長



水土里ネット福島 茂木専務理事



荒川大暗渠砂防堰堤



荒川大暗渠砂防堰堤

## 業務研修会アンケート結果(受講者 77人)

回収率 36人 47%

### ○この研修会の開催時期について

- |            |                |
|------------|----------------|
| 1. ちょうど良い  | <u>34人</u> 94% |
| 2. 別の時期がよい | <u>2人</u> 6%   |
- (7月上旬、9月頃)

### ○研修内容はいかがでしたか

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. 大変参考になった     | <u>28人</u> 78% |
| 2. ふつうである       | <u>8人</u> 22%  |
| 3. あまり参考にならなかった | <u>0人</u>      |
- (理由はどんな点ですか )

### ○今後、どのような内容の研修を受けてみたいと思いますか。具体的にお書き下さい。

- ・施設維持管理について
- ・事業関係の研修
- ・土地改良区の今後の運営、土地改良区がかかえている問題について
- ・現状に合った施設の研修
- ・土地改良関係ばかりでなく、一般企業においての現状等を1つ位入れた研修
- ・各土地改良区毎の、目ざしているもの、工夫していることを、発表して頂き、良い点を取り入れたい。
- ・消費税、会計処理について（実務的なこと）
- ・県内の先進地（営農・施設など）
- ・米価下落の具体的な理由等について
- ・賦課滞納について
- ・土地改良区職員の意識改革や質の向上になる研修

### ○その他、感想要望等ありましたらご記入下さい。

- ・総会の中で話しがあった記念品や県外研修について、会員の方から意見もなかつたので、事務局に検討して頂くという事で良いと思います。
- ・1日目の業務研修会、2日目の現地研修どちらも普段の業務では勉強できない内容なので、大変参考になりました。
- ・協議会の事業計画・予算について  
財政面、運転資金面から百数十万円程度の繰越金が常に必要と思われる所以、平成23年度收支予算編成は留意されたい。
- ・県内の土地改良区の職員の方々と情報交換ができる、良かった。

第32回

## 全国土地改良大会 ~島根大会~

「国引きのロマン、水土里の想い。神話の郷から今、未来へ」

第32回全国土地改良大会・島根大会は、10月28日(水)午前10時より、島根県松江市「くにびきメッセ」で開催され、大会テーマ「国引きのロマン、水土里の想い。神話の郷から今、未来へ」のもと、全国の土地改良関係者約3,100名が参集した。農業生産を支える農地や農業用水路などを維持・保全・

整備する農業農村整備の重要性を広く国民にアピールするとともに、「水・土・里」の想いを未来へ繋いでいこうと確認しあった。



式典では、水土里ネット島根の青木幹雄会長が開催県を代表し「先人が築いた農村環境を良好な状態で次世代に継承するため、農地・水・環境保全に全力をあげている。こうした事業を継続し水土里の想いを次世代へつなげていきたい」と挨拶。全国水土里ネットの野中広務会長は、主催者を代表し「水田の汎用化と農業水利施設の維持、更新を確実に進め、農村地域の活性化を図り、持続可能な国土を取り戻していく真剣な取り組みが必要」と挨拶した。

土地改良事業功労者表彰では、会津若松市湊土地改良区理事長、長谷川道吉氏が「全土連会長表彰」を受賞された。

大会宣言は、島根大学の学生により「健全な水・土・里を守ることにより、食料・水・エネルギーの資源供給を担うばかりでなく、国土を保全する重要な責務をも担う者として国民の負託と信頼に一致団結して応えていくことを宣言する。」と力強く読み上げられた。

次期開催県の長崎県へ大会旗を引き継ぎ、大会は閉会した。  
(来年の第33回大会は、平成22年10月26日(火)長崎県島原市の「島原復興アリーナ」をメイン会場に開催予定)

## 大 会 宣 言

豊かな自然が織りなし、人と自然が調和した鮮やかな我が国の四季は、古来より様々な恵みを人々にもたらしてきました。

温帯地域に位置し四方を海に囲まれたモンスーン気候の国土では、太陽をエネルギーとして、豊富な水資源を山から里へ、里から川へ、川から海へ、そしてまた海から山へ、と循環させています。降った雨や雪は、時には災害をもたらすものの、国民生活や農業にはなくてはならない大地の恵みとして、世界にも誇るべき貴重な国土資源であり、永年に亘り人々は細やかに人の手を加え自然に働きかけながら、水田稲作を中心とした持続可能な循環型国土を形づくってきました。

20世紀の経済成長は我が国の国民生活を物質的に豊かなものにしましたが、21世紀に入り、グローバルな経済成長と人口爆発は、地球単位での「エネルギー」と「環境」について重要な問題を提起しつつあります。我が国は本来は豊富な水資源やバイオマス資源などを有する国土でありながら、現在、食料自給率は先進国諸国の中でも極めて低く、農地や再生可能エネルギーも必ずしも十分に利用されているとは言えません。近年の国際的な貿易自由化の流れや農産物価格の低迷、担い手や後継者の不足などにより、将来にわたり最大限活用していくべき農地や農業水利システムが更新時期を迎え、国土全体で存続の危機に瀕しています。

我が国は人口減少社会を前にして、「食料」「水」「エネルギー」を持続的に供給してきた里地・里山のシステムを未来に持続可能なものとして「誰が担い、どう維持していくのか」が問われています。水田の汎用化と農業水利システムの保全による水田農業の再生と主要穀物の安定供給により、早急に我が国の食料自給率を高めるとともに、国土保全、水源かん養、水質浄化など多面的機能を有する農村地域の活性化により、持続可能な国土を再生していく取組が、今求められています。

神在月の今日ここに集う関係者は、健全な「水」「土」「里」を守ることにより、「食料」「水」「エネルギー」の資源供給を担うばかりでなく、「国土」を保全する重要な責務をも担う者として、国民の負託と信頼を一致団結して応えていくことを、日本国の大明の歴史を今に伝えるここ島根の地において高らかに宣言いたします。

平成21年10月28日  
第32回全国土地改良大会島根大会



長谷川道吉氏  
会津若松市湊土地改良区理事長

☆全国土地改良事業団体連合会会長表彰

土地改良事業功績者  
表彰受賞者

# 支部だより

## 県北支部

池田 玲子



視察研修は、日帰りということもあり四十五名の会員の方々に参加していただき、十一月六日に南会津郡の三ヶ所の現場等を視察しました。

■県南会津農林事務所  
「中山間地域総合農地防災事業長

■南会津郡下郷町  
野地区

一、「耕作放棄地対策南会津東部地区」  
二、「山村と都市との交流事業鶴ヶ池地区」

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

ます。

平成二十年十二月より県北支部にお世話になっております池田と申します。

早いもので丸一年が過ぎてしまい

ました。まだまだ分からぬことばかりですがどうぞよろしくお願ひいたします。

平成二十一年度の県北支部先進地

法面が石積（地元の石）、底面にも置き石また梅花藻が繁殖していく動植物にとつてもやさしい水路になつておりました。

十七年から環境に配慮した水路を計画し平成二十年着工に至ったそうです。法面が石積（地元の石）、底面にも置き石また梅花藻が繁殖していく動植物にとつてもやさしい水路になつておりました。

「南会津東部地区」につきましては、現地で、下郷町役場室井農林振興係長に説明をしていただきまし

た。

本地区は、昭和四十三年から国營パイロット事業により原野が農地として整備され順次作付けされました

が、昭和五十五年頃から気象災害・野ウサギ・野ネズミ等による食害、豪雪によるブドウ棚の崩壊や昭和五十九年には「ねむり病」の発生により労働者不足も重なり荒廃化が進んだそうです。

その後、あらゆる農作物に取り組んでいますが、約五〇%は未だ未活用のままになっているものの加工用のトマト・高菜・ブロッコリー・タマネギ・インゲンと順調に作付けに成功しているということです。

また、土地柄か石が大変多いことから取り除くことは不可能というこ

とから、石を砕きながら整地できる外国製の「ストーンクラッシャー」を購入。実際に整地の様子を見入つてしましました。

現地では、今年度から作付けした高菜を収穫しておりましたが、13haもの広い範囲を年配の方々が多く若年の農業離れは深刻のようでした。

最後の現地として「山村と都市との交流事業鶴ヶ池地区」を下郷町役場星産業振興班長に説明をしていた

だきました。

こちらの地区も南会津東部地区同様、耕作放棄地対策としての現場でした。都市住民を春から秋に迎え農業等を通じながら地域住民との交流を深めることができる滞在型施設（クラブハウスやラウベ）の整備を進めておりました。

県北管内も遊休農地が非常に多く、自治体を中心的に取り組み常に努力している地域での現地研修でもあり参加者の方々も真剣に聞き入つておりました。

土地改良にとりましては、ますま

すきびしい状況になつてまいりましたが、少しでも多くの会員の皆様に

参加していただき、有意義な研修になるようご意見をお聞きしながら企画したいと思っておりまので今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



(1) 県中支部管内土地改良区役・職員、市町村担当職員研修会  
平成二十一年一月二十七日(火)

さて、平成二十一年度の事業報告をさせていただきます。

平成二十一年十一月より支部嘱託職員としてお世話になつております。

- (1) 基幹水利施設ストックマネジメント事業の現状について  
主査 三浦 隆雄氏  
農地計画課
- (2) 二十一世紀土地改良区創造運動の取り組み事例  
伊達西根堰土地改良区  
事務局長 石川 博利氏
- (3) ほ場整備を契機とした担い手育成と土地改良区の役割について  
県中農林事務所農村整備部  
農地計画課  
主査 酒井 勇光氏  
④ 非補助農業基盤整備資金について  
日本政策金融公庫仙台支店
- (4) 土地改良の賦課および滞納について  
福島県農林水産部農村計画課  
主査 紺野 保幸氏
- (5) 農林水産事業副調査役  
居川 美貴氏
- (6) 農業用水水源地域保全対策と施設管理について  
福島県農林水産部農村計画課  
主査 渡辺 隆氏

- (2) 第五十五回通常総会  
平成二十一年二月十八日(水)  
平成十九年度事業報告の承認について  
外四議案  
主査 三浦 隆雄氏  
農業農村整備事業視察研修  
平成二十一年十一月四日(水)  
～五日(木)
- (3) (全て原案通り承認決定)  
以上二十六名出席、委任状五名  
農業農村整備事業視察研修  
平成二十一年十一月四日(水)  
～五日(木)
- (1) 宮城県遠田郡美里町「イーストファームみやぎ」  
昭和五十六年県営ほ場整備事業を期に、完全協業体の農業、農家の平均収入の向上や、品質の安心、安全な農産物を目指し、昭和五十九年に「小島生産協業組合」を設立。協業体に対する反対も多く三十五戸に呼びかけを行つたが加入農家は五戸しかなかつたが、栄養周期栽培という独自の栽培法で特別栽培米としての販売（自社販売とし、玄米はなく精米のみ、またJAへの出荷も行つていらない）を開始や、機械の共同使用等で運営していた。

ごほんの加工事業を始める。現在仙台市内の百貨店やホテル・飲食店・スーパーでの産直販売や全国配達、さらに海外（台湾）にむけ本格的な営業活動を展開している。販売ルートについては、全て口コミにより確保しており急激に販路拡大が図られてはいい状況である。

現在の作付け面積は、三五haで内訳は自社二ha利用権設定三三haで、このうち $\frac{1}{3}$ を小麦七ha、大豆二二ha（小麦収穫後）の転作を行つてている。またラジコンへりによる防除作業受託一、〇〇〇ha等を行つてている。

今後、消費者グループとの提携や全国ネット商品になれるよう新商品開発に努め、農業や食料を守り育ててゆくため都市と農村の定期的な交流事業を展開し相互理解を深めていきたいとしている。

(2) 岩手県奥州市 農事組合法人「原体ファーム」  
現在の地域状況は、一〇〇haの農地で一三二戸の地域で、ほ場整備前より一二戸増加している。平成九年から平成十五年に担い手育成事業によりほ場整備

を実施したが、実施にあたりアンケート調査を行い、反対が五〇%と多くあつたが生活関連整備要望（道路の改善等）も多くあり、生活環境、自然環境、人間環境の三つの環境を良くしようと基盤整備事業に着手した。

しかし、後継者確保の問題や機械導入に対し投資することは困難なことから、個人経営の継続は難しく、農業規模の拡大も困難という意見があり、平成十一年「原体営農組合」を設立し、機械の共同利用を図り、地域農業の受け皿とした。

そして、水田を中心とした農業経営を目指し、小作契約により栽培や農作業の受託を行うことを目的に集落七二戸の参加で設立した。現在は七四戸である。ゼロからのスタートだったが、平成十二年度中山間地域直接支払制度（全地域対象区域）を利用し、農業機械の整備（県単補助金五〇%の残を中山間直接払い支出によって持ち出しなし）を行い、個人で無駄な農機具は購入しないようにし、組織が共同で作業実施することと

し、目標の四〇ha規模に対応できるようになった。しかし、組織力不足を感じ農地の利用権設定や税制上優遇措置のある農業法人設立を決意し、営農組合立ち上げから三年後、平成十四年「農事組合法人 原体ファーム」の設立となる。

特定農業法人として集落の農地五〇%以上の集積、農作業の受託を目指し集落営農に当たっている。

従来、市場価格に対応するものしか作付けていなかつたため、米、大豆、野菜につづき、加工、販売部門を導入し、現在では農地集積の推進や新規園芸作物の導入、大豆のプロッククローテーション等による周年栽培型の集落営農が実現したが、この地域は「米」が一番と考えたところ、関西で米粉の評判を聞き、自らも研修し食べ物の経営コン

サルタントの力を借り、地元産の米粉を使用して生産するパン加工販売の準備が始まった。

平成十七年には米パン工房、店舗「夢の里工房はらたい」を開店することができ、田園風景

の中でのすばらしいロケーションの中売り切れるができるほどの盛況である。それにより、女性や高齢者の参画が促進され、県のモデル経営体となっている。当地域での農業後継者への考え方

え方

・農外収入を求めて働いてもいい、ただし地域に残つてほしい。

・祝祭日の農作業の強制はしない。それぞれ予定があるだろう。

・このように、農業後継者に過度な期待をせずに、組織に任せることにより、組織も地域も活性化が図られたのかと思いま

す。

管内土地改良区内で八月に月形中野土地改良区、十月に郡山市日和田土地改良区が解散いたしました。

平成二十二年、皆様にとって良い一年でありますようお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さして、平成二十一年度の県南支部会員の皆様には、いつもお世話になつております。



今年は県南農林事務所の異動にて農村整備部伊藤章夫部長始め川久保一雄副部長と新たに着任されました。

六月十二日に事務局長連絡協議会の総会を行ないましたが、水土里

ネット福島茂木功一専務を迎えて、終始、和やかな会合となりました。視察研修の行き先やテーマについては、毎回どこの支部でも同じで、苦労するのが憂鬱の種であり、また醍醐味でもある？？と思います。

そうした中で、土地改良区については、今年、第三十三回職員連絡協議会及び業務研修会開催地である県北管内に焦点を置きました。

聞くところによれば県南の研修で県北管内へ視察研修をしたことがないとの声を聞いたことから、県北管内の土地改良区との親睦もより深めたいと言う思いもあり、伊達西根塙土地改良区に決定しました。

八月二十一日に県南西部の職員連絡協議会の研修会の席上において参加者を募りました。その甲斐あってか、参加者は、過去最多の二十九名になりました。

一日目は、福島市飯坂町の摺上川から取水している伊達西根塙土地改良区へ伺いました。江戸初期に造られた二本の水路（標高の低い下堰（全長十二キロ）と、高い上堰（同二十六キロ）があり、現在「選奨土木遺産」に登録してもらおうと準備を進めている大変歴史ある土地改良区です。

二十一世紀創造運動の取組みについて、研修を受けた際に、地域住民はじめ小学生に至るまで、この歴史ある施設を、みんなで守ろうという意識があることに、とても深く感心致しました。

このように高い意識を持ち継承していく事が、いかに大切か再認識させられました。

いつまでも、こうした意識を忘れずに施設を守つていって頂きたいと

言う気持ちと、他の土地改良区の施設も同じように、そうした意識が途絶える事なく継承して行くことが出来たなら、どんなにか良いか・・と思いました。

二日目は、近年、食料自給率の向上や水田の有効活用などの観点から、「米粉」が全国的に広まり、注目されている中「米粉で作った【麵】米粉めん」の生産販売をしている秋田県境に接する寒暖の差が山形県

最近では、「米粉」は聞き慣れた言葉で米粉パンは、その先駆けであるが、そのパンを製造するとなると、①日持ちしない②小麦粉と比較し膨らみが悪く味も劣る③コストが高いという三つの課題があるという。

これらの課題を、山形の地域性（米の主食が多く人口も少ない）を踏まえ解決することが難しいことからパンを断念して「米粉麺」を生産販売することを決意したそうです。

そうした過程から「米粉麺」には、これら三つの課題に関して優位性がぞねつと「にて視察研修をしました。法人を立ち上げて二年が経ち、学校給食をマーケティングとして中華

農林水産省が公表した米粉の需要拡大に関するデータによると、日本人が一日に食べる食事のうち小麦粉

設立当初は、商品の注目を集めていたものの、注文は少なく、生産は製造能力の半分にも満たない低空飛行が続いていたこともあつたが、「健康」「安全」「国産」にこだわり、消費者の嗜好に合わせて、美味しさも追求した結果、「はえぬき麺」が優良ふるさと食品中央コンクールで農林水産大臣賞を受賞し現在では、多くの契約案件を抱えるまでとなつた。

これらの研修を通して「古きよき時代からの伝承」と「新たな食文化米の展開」を前に世にありふれていく新しいものとは、常に古くなるが、『いいもの』は時代を超えて行くものかもしれないと思いました。

これから、伊達西根塙土地改良区と農事組合法人「りぞねつと」の益々のご発展を心よりご祈願致しまして視察研修の報告とさせて頂きま

す。  
読んで頂いた方、思いのほか長文となつてしまいまして・・・  
ご拝読ありがとうございました。

支部活動に思う・・・・

温暖化の時代が到来とは言え、今年もまた飯豊山に冠雪の節となりました。

会津支部にお世話になり

二十年という歳月が過ぎようとしております。私が入会当初は、ほ場整備事業や灌漑排水事業が至る所で実施されておりましたが、基盤整備事業も完了し、基盤を基にした新たな農業農村づくりに向けた土地改良区のあり方も変革の時のように思いました。

そのような中で、今年度の支部活

動を振り返って感じ得たことは、今回

の農地法の改正に伴ない、新たな農地制度は、自給率向上を目指しての他産業種の新規参入が容易になりました、貸借期限も一〇年から五〇年に延長となる。

そのような改正後の中で、各土地改良区の運営面では、「賦課負担が将来問題となるのではないか! 参入者が撤退した場合の処理方法や、未収となつた場合の賦課徴収、またその地域との施設管理面での協力体制についても、改正条文を作成し、今のうちから明確にしておく必要があるのではないか!」このことは

会津だけの問題でなくして、会津からこの発信をしていただきたい!」と農地法の改正による問題点について、多くの土地改良区より提起がありました。その提言を基に、平成二十一年十月九日「土地改良運営(賦課)に関する研修会」と題して農地法改正の勉強会を、会計理事・総括監事・会計担当職員を対象に意見聴取をしながら、総数一二一名の役職員参加のもと、将来を憂う土地改良の活発な意見が交わされたところです。

また、「私たち土地改良区に採用

まもない職員は、維持管理の面での

土地改良事業の減少

積算システムの内容について、もつと勉強をしたいし、これから土地改良区の役割はどうあるべきなのか! 今後の方向性について、わかりやすい指導や解説をお願いしたい!

そして、日々組合員の方々と真正面から向き合つて、土地改良区の運営に関わっていく指針と、互いの交流の場を、支部事業の一環として研修会を開催してほしい」旨の要望があり、これからの土地改良区を担う職員の方々を対象とした「初期職員研修会」を平成二十一年十一月二十七日、専務理事

茂木功一氏の指導のもと開催し、土地改良区の役割と方向性と題し、組合員からの賦課金によって運営される基本的な運営のあり方や、今日の農業施策の展開に沿つた農地の関わり方について、今までと異なつた土地改良区と農業農村との連携した地域振興のあり方についてのお話を聞いて戴きました。



や、合併等による土地改良区数の減少が進む中で、地域の農業との関わり、農村環境の保全を守るべく努力をされているそれぞれの町村・土地改良区の新たな幅広い要望や意見を基に、これらに応えるべく、支部としての取り組みこそが、支部活動のあり方のように見えた一年であったように思いました。

一、亘理土地改良区 宮城県亘理  
動 郡亘理町字江下一二四

二、亘理土地改良区 宮城県亘理  
動

三) 二十一世紀土地改良区創造運  
動

登米市南方町西山成前六一  
宮城県

(一) 環境に配慮した土地改良事業  
(二) 土地改良施設の維持管理  
(三) 二十一世紀土地改良区創造運  
動



## 相双支部

蜂須賀ひろみ



- 一) 土地改良施設の維持管理  
二) 農地集積への取組  
三) 二十一世紀土地改良区創造運動

を、研修致しました。

「迫川沿岸土地改良区」につきましては、迫川沿岸土地改良区の会議室において、理事長三品幸徳様よりご挨拶をしては、迫川沿岸土地改良区の会議室において、理事長上野智通様よりご挨拶をいただき、引き続き、総務課長遠藤富士男様より説明をしてい

ただき、質疑応答、現地視察等が行われました。「亘理土地改良区」につきましては、亘理土地改良区の会議室において、理事長三品幸徳様よりご挨拶をいただき、引き続き、事務局長菊地哲男様より説明をしていただき、担当者の方々にもご出席いただいて質疑応答が行われました。どの視察先でも担当の方々の熱意あふれる懇切丁寧な説明があり、参加

者の方々も熱心に質問するなど、とても有意義な研修であったと思いま

す。ご参加していただきました皆様には、いろいろとお世話になりました。

また、平成二十一年八月二十日には、相双方部土地改良団体職員連絡協議会業務研修会に協賛致しました。

また、当支部では、平成二十一年九月十五日(火)~十六日(水)開催の相双方部土地改良区事務局長連絡協議会の先進地視察研修にも協賛致しました。

Jビレッジ研修室にて

研修内容は、

- (1) 大仙市協和小種土地改良区（農事組合法人たねっこ）  
秋田県大仙市協和小種字上鏡台

二一七

富岡用水改良事務

〔集落営農組織について〕

- 一) 土地改良施設の維持管理  
二) 農地集積への取組  
三) 二十一世紀土地改良区創造運動

ただき、質疑応答、現地視察等が行  
われました。

- 一) 「亘理土地改良区」につきまして  
二) 「ビオトープについて」

所主任主査 小久保和秀氏  
相双農林事務所農村整備部  
部長 持館 孝悦氏  
三) 「農業水利施設の役割と維持  
管理及び利活用について」  
水土里ネット福島環境整備部  
次長 坂内 隆芳氏

## (2) 越前堰土地改良区

岩手県滝沢村篠木字待場八〇  
「21世紀土地改良区創準備運動について」

でした。県職員、土地改良区事務局长（参考）、職員等十三名の参加で実施致しました。

これからも、各種研修会を企画して参りますので、会員の皆様におかれましては、ぜひ、ご参加下さいます。

続きまして「請戸川土地改良区」について、事務局長 佐々木茂夫様よりご紹介致します。

これまで事業申請組織の小規模土地改良区から、一行政区一土地改良区組織に合併、そして広域水系組織の土地改良区に合併拡充されてきました。各行政区組織との事業推進調整はできますが、「土地改良事業が完成すれば、土地改良区組織が解散する道を選定する事なく」維持管理をする重要性を地域に伝える事が必要でした。特に客土・暗渠排水工事後の管理は受益者管理・道路は管理に機動力が高い行政機関・水路の管理について請戸川土地改良区は国営事業・県営事業で造成した施設・県単事業・非補助事業で造成した施設の全てに受益者がいますので、受益者はすべて土地改良区の組合員でした。

## 相双管内土地改良区紹介

〈請戸川土地改良区の維持管理体制の経緯〉

平成九年十月一日新設合併されて平成二十一年度で十三年に入りました。明治から戦後にかけて水稻収益が減収した時代に農道築立に出役賃金で冬時期の農家の暮らしを支え続けた時代、そして戦後土地改良法制定後土地改良事業を目的に新設土地改良区が設立しました。請戸川土地改良区管内には十九組織の土地改良区が昭和二十六年度から昭和三十九

年度の間に設立されました。当時から市町の農業振興計画に基づき年次計画で区画整理・水路整備・客土・暗渠排水の各種工事を実施し、土地改良事業完了公告後も土地改良区は造成された施設の維持管理に努めてきました。

これまで事業申請組織の小規模土地改良区から、一行政区一土地改良区組織に合併、そして広域水系組織の土地改良区に合併拡充されてきました。各行政区組織との事業推進調整はできますが、「土地改良事業が完成すれば、土地改良区組織が解散する道を選定する事なく」維持管理をする重要性を地域に伝える事が必要でした。特に客土・暗渠排水工事後の管理は受益者管理・道路は管理に機動力が高い行政機関・水路の管理について請戸川土地改良区は国営事業・県営事業で造成した施設・県単事業・非補助事業で造成した施設の全てに受益者がいますので、受益者はすべて土地改良区の組合員でした。

〈維持管理計画の法手続き（第57条の2）〉

平成二十一年度管内の行政区単位に土地改良事業説明会を開催したおり、毎年広報で知らせていました

年度の間に設立されました。

当時から市町の農業振興計画に基

づき年次計画で区画整理・水路整備・客土・暗渠排水の各種工事を実施し、土地改良事業完了公告後も土地改良区は造成された施設の維持管理に努めています。まだ組合員の意向をすようよろしくお願ひ申し上げます。

これまで受益者が水管理・施設清掃管理を行い先人が造成した施設を後世に継承するために日夜・休日間わず出役に努めています。そうした「汗を流す組合員」と「土地改良区役員・事務局員」の労苦の笑顔が地域間の連携を生み出してきています。水利周辺から清らかな水面と田園風景に朝霧が走る空間を呼び込んでくれます。土地改良区組織は「顔が見える結い」「会話で盛り上がる井戸端」が求められている事で、四角四面の一面を見て推進していた様な考え方の狭さを感じています。今だから出来る土地改良法及びその他

の関係法令を遵守し、適正な執行を行ったため維持管理計画の法手続きから認め可を頂き土地改良区組織と直接

の関係法令を遵守し、適正な執行を行ったため維持管理計画の法手続きから認め可を頂き土地改良区組織と直接

が、「賦課金が取られるだけで何も世話をしていただいていない」「土地改良区組合員の利点は何か」夜空に光る星の輝きは心を和ましてくれますが、集会所内の組合員意見は、太く鋭い矢が突き刺さるご意見を頂いています。まだまだ組合員の意向を取り込み土地改良事業計画を樹立する事が沢山あります。

これまで受益者が水管理・施設清掃管理を行い先人が造成した施設を後世に継承するために日夜・休日間わず出役に努めています。そうした「汗を流す組合員」と「土地改良区役員・事務局員」の労苦の笑顔が地域間の連携を生み出してきています。水利施設を案内する時、水路周辺の樹木・野草・エビ・小魚の紹介をしながら、家屋の囲い木の名前を呼び上げます。「やぶつばき・南天・お茶・イチジク・ゆず・柿・グミ・ビワ・かしわ・こなら・けやき・しきび・いちょう・うめもどき等」と生活に必要な木を育てている農村風景は自立・共存・連携の継承している

地域について土地改良区職員だから解る事でもあります。

施設管理経費が減じても続けられ

る土地改良区職員は「施設管理マン」最小経費で短時間で修繕出来る英知が求められる時、二宮金治郎の貧しさを抜けだし経験をつみ「積少為大」らしい言葉をみつけました。各地区

が、「賦課金が取られるだけで何も世話をしていただいていない」「土地改良区組合員の利点は何か」夜空に光る星の輝きは心を和まってくれますが、集会所内の組合員意見は、太く鋭い矢が突き刺さるご意見を頂いています。まだ組合員の意向を取り込み土地改良事業計画を樹立する事が沢山あります。

これまで受益者が水管理・施設清掃管理を行い先人が造成した施設を後世に継承するために日夜・休日間わず出役に努めています。そうした「汗を流す組合員」と「土地改良区役員・事務局員」の労苦の笑顔が地域間の連携を生み出してきています。水利施設を案内する時、水路周辺の樹木・野草・エビ・小魚の紹介をしながら、家屋の囲い木の名前を呼び上げます。「やぶつばき・南天・お茶・イチジク・ゆず・柿・グミ・ビワ・かしわ・こなら・けやき・しきび・いちょう・うめもどき等」と生活に必要な木を育てている農村風景は自立・共存・連携の継承している

地域について土地改良区職員だから解る事でもあります。

施設管理経費が減じても続けられ

る土地改良区職員は「施設管理マン」最小経費で短時間で修繕出来る英知が求められる時、二宮金治郎の貧しさを抜けだし経験をつみ「積少為大」らしい言葉をみつけました。各地区

が、「賦課金が取られるだけで何も世話をしていただいていない」「土地改良区組合員の利点は何か」夜空に光る星の輝きは心を和まってくれますが、集会所内の組合員意見は、太く鋭い矢が突き刺さるご意見を頂いています。まだ組合員の意向を取り込み土地改良事業計画を樹立する事が沢山あります。

これまで受益者が水管理・施設清掃管理を行い先人が造成した施設を後世に継承するために日夜・休日間わず出役に努めています。そうした「汗を流す組合員」と「土地改良区役員・事務局員」の労苦の笑顔が地域間の連携を生み出してきています。水利施設を案内する時、水路周辺の樹木・野草・エビ・小魚の紹介をしながら、家屋の囲い木の名前を呼び上げます。「やぶつばき・南天・お茶・イチジク・ゆず・柿・グミ・ビワ・かしわ・こなら・けやき・しきび・いちょう・うめもどき等」と生活に必要な木を育てている農村風景は自立・共存・連携の継承している

地域について土地改良区職員だから解る事でもあります。

施設管理経費が減じても続けられ

る土地改良区職員は「施設管理マン」最小経費で短時間で修繕出来る英知が求められる時、二宮金治郎の貧しさを抜けだし経験をつみ「積少為大」らしい言葉をみつけました。各地区

の土地改良事業完成で隣接する地域  
住民の目にとまり、農村環境の人間  
組織の仕組みを見直し、現在の仕事  
の考え方と同じと言われています。私  
たちの職場では、職員の仕事で何か  
お役に立てたらとの思いがあります  
地域住民の皆様からあきられ  
ない何らかの期待される職場  
を目指す連より



(参加者29名)

について

NPO法人あぶくま地域づくり

り推進機構

理事長 吉田敏八氏

第3地区」の取組み

一、農用地集団化優良地区「一関  
経緯と現在

二、担い手育成・営農組織団体の  
運営・維持管理状況

三、運営・維持管理状況

二日目 岩手県奥州市

農事組合法人いさわ産直  
センターあじさい

一、法人設立経過について  
二、運営、管理について  
三、ハウス栽培視察

○ 11月25日

いわき方部土地改良区職員研修会  
(参加者27名)

一、農業農村整備事業の現状につ  
いて  
いわき農林事務所農村整備部

副部長 菊地和明氏

二、法第132条検査並びに定款  
変更における主な指導事項につ  
いて  
いわき農林事務所企画部

地域農林企画課

三、地域活性化に向けた取組みに  
ご報告いたします。

○ 10月22日～23日

農業農村整備事業先進地県外研修

一日目 岩手県一関市

水土里ネットてりい

理事長 吉田敏八氏

第3地区」の取組み

一、農用地集団化優良地区「一関  
経緯と現在

二、担い手育成・営農組織団体の  
運営・維持管理状況

三、運営・維持管理状況

二日目 岩手県奥州市

農事組合法人いさわ産直  
センターあじさい

一、法人設立経過について  
二、運営、管理について  
三、ハウス栽培視察

○ 11月25日

いわき方部土地改良区職員研修会  
(参加者27名)

一、農業農村整備事業の現状につ  
いて  
いわき農林事務所農村整備部

副部長 菊地和明氏

二、法第132条検査並びに定款  
変更における主な指導事項につ  
いて  
いわき農林事務所企画部

地域農林企画課

三、地域活性化に向けた取組みに  
ご報告いたします。

○ 10月22日～23日

農業農村整備事業先進地県外研修

校給食の提供など販売拡大を展開し  
ており、その努力が認められ、農林  
水産省経営局長賞などさまざまな賞  
を頂いております。

このような大きな直売所でありな  
がら、所員の給料は最低賃金ほどで  
あり、部門によつては無償に近い賃  
金ではあります、商品の陳列から  
宣伝など独自のアイデアを出し合  
ながら活動しております、生き生きと働  
いている姿が見受けられます。

近年農業ビジネスが注目されてお  
ります。その理由として、地元で収  
穫した鮮度のいい農産物、安全性、  
生産者の顔がわかる(生産者名の明  
記)、値段は高くても安心なものを  
求める傾向にあります。この背景に  
は、輸入農産物の過剰な農薬や食品  
加工物の毒・異物混入などに対する  
不信感が、今日の食に対する見識を  
変えてきていることは間違いないあ  
せん。

今回研修でお邪魔した農業組合法  
人いさわ産直センターあじさいさん  
は、農家女性を中心とし年間1億の  
売り上げがある大きな直売所であり  
ます。設立当初は小さなプレハブで  
営業していた直売所から急成長し、  
法人化を立ち上げ、その後農産物販  
売の他に食材加工、食堂の運営、学

校給食の提供など販売拡大を展開し  
ており、その努力が認められ、農林  
水産省経営局長賞などさまざまな賞  
を頂いております。

このような大きな直売所でありな  
がら、所員の給料は最低賃金ほどで  
あり、部門によつては無償に近い賃  
金ではあります、商品の陳列から  
宣伝など独自のアイデアを出し合  
ながら活動しております、生き生きと働  
いている姿が見受けられます。

今回現地視察したハウスには冬期  
に備えて頑丈に設置してあり、その  
中にはしいたけ、花、ピーマンなど  
を栽培しており、参加者も栽培方法  
や栽培物について熱心に聞いており  
ました。また季節によって別の敷地  
にブルーベリー、大豆、そば粉など  
さまざまな農産物の無農薬栽培を実  
施しております。この栽培した食材  
を手作りで加工し商品化したり、隣  
接してある食堂や学校給食ほか多方  
面の提供にも力を入れているよう  
です。

研修後の昼食は、その食堂で地元  
食材を使用した郷土食をいただける  
ことから、参加者共々美味しくいた  
だきました。

女性ならではの特性を生かした直  
売所でした。

このように直売所も個性を出し、より多くの方に来て頂けるよう創意工夫しており、このようなビジネスが今後の農業を支えていくのかもしれません。

近年地産池消ブランドを提供する農業者が増加していることや、このような直売所が絶大な人気を得ていることから、食に対し過敏になつてゐる消費者が急増していることが伺えます。

この状況を大きなビジネスチャンスとして、よりよい農産物を提供する生産者と、安全志向を求める消費者が相乗効果となつて国産農産物の需要が高まつていくことを期待しております。

支部研修において土地改良区を重視的にまわつて来ましたが、農業の幅広い知識を深めるために、会員、支部担当の意見を聞きながら、研修の分野を広げていきたいと思いました。

支部職員として早四年が経ち、まだ浅学の身ではありますが、会員方々より温かく支えられておりますこと、そして管外会員の方にもお励ましの声をかけていただき大変感謝しております。今後も皆様のご指導を受けながら邁進していきたいと

思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



土地改良職員連絡協議会の皆様には新年をどのように迎えているでしょうか。私は毎年変わり映えがない、と言えるでしょう。しかし考えようによつては大きな変化もなく平穩な生活が続いているとも考えられます。不況による失業や就職したくても出来ない状況を見れば、毎年穏やかな新年を迎えることが出来ることは十分幸福なことだと思います。

さて、表題にありますように、土地改良事業に携わり三十年が過ぎました。

平成十八年より伊達西根堰土地改良区で更に多くの方にお世話になつて います。

三十年間には、当然失敗も多くあり、あまり振り返りたくないと言ふ思いで、「失敗は成功のもと（母）」と思つていましたが、「失敗ばかりでは成長がない。失敗から成功は生まれない」とのこと。小さな成功体験から大きな成功が得られるそうです。そして、失敗で得られるのは、成功への道筋ではなく、初心であり、初心に帰ることが成功につながり、その成功をバネに人間は成長していくのだそうです。

## 年勤続表彰 30年受賞によせて

# 伊達西根堰土地改良区 石川 博利

永年勤続

した。私は高校で農業土木を学び高校卒業と同時に福島県土地改良事業団体連合会に入会しました。

さて、「自分には小さな成功もな  
いとは言えないし、初心に返るため  
にもう少し失敗しても大丈夫、これ  
からの成功をバネにカンバロウ」と、  
今後の失敗の言い訳を今から準備し  
ては大きな成功は遠そうです。しかし  
し、大きな成功とは価値観によりそ  
れぞれ違うもだと思います。目標に  
向かい努力する先に成功が待つてい  
る?はずです。

方々にお世話になり、今日を迎えられたことに感慨を新たにしたところです。改めて感謝申し上げる次第です。

私は現在会津宮川土地改良区に籍を置いていますが、今の改良区は平成十七年三月に合併したもので、最初は平成十年に鶴沼川防災ダム連合協議会に採用されたのがスタートで

防災ダム時代は、毎日のように役場前の事務所と、山間部にある担当するダム管理事務所を往復したものでした。春から秋までの通勤は快適なドライブができるのですが、積雪期ともなるとダムの場所は会津美里町の山奥で、豪雪地帯であるため除雪しても道路は一車線分しか確保されていないことなど日常茶飯事のことでした。

「続10年を迎えて」

# 会津宮川土地改良区 諏訪美彦

この度、勤続年数が十年を超えて、表彰の栄に浴することとなりました  
が、奉職後、これまでの間に様々な

備して職員も一体化を図るため、防災ダム職員五人も当時の会津宮川土地改良区職員とする辞令が、連合協

議会長であり理事長である町長より発令され、平成十五年十月から土地改良区職員となつたという十年間の経緯です。

現在は事業課管理係職員として、防災ダム、発電所、頭首工、パイプライン等の管理、設計積算等を担当しています。土地改良区の仕事は地域も業務範囲も広く、いろいろな考え方を持った組合員との接触・交流もあり、また、地震や気象に関する警報が出された時の巡回点検、警戒体制中の関係機関への連絡と報告などを通じ、関連する部署のいろいろな職員の仕方などを目の当たりにして、参考にできる部分を大いに吸収していきたいと思います。

駄文を並べただけの文章になつてしましましたが、これから私の温かく、かつ、長い目で見守つて下さい。ほめられて育つタイプですから、上司の皆様どうか宜しくお願ひ致します。

## 「30年いろいろありました」

水土里ネット福島 齋藤 孝美

とつては、苦しみ(?)の日々でした。当時は、現在のように一人一台づつパソコンを貸与されていなかつたので、汎用機で入力作業を行い、伝票等の出力をするのですが、その伝票一枚を出すのも、慣れるまでは本当に大変でした。ある時は夢にまで出てきたほどでした。

そのうちに、複式簿記への移行をすることになり、経理課の職員は、「簿記」なるものを勉強することになりました。が、しかし、普通科卒業の自分は、「貸方・借方」は勿論のこと、「仕訳」などという言葉さえ知らなかつたので、チンパンカンパンでした。そこは、実践あるのみ、習うより慣れろということで、何か勤めることができました。

その後、平成十三年度に本県で開催されました「第二十四回全国土地改良大会」の事務局を担当することになりました。全国規模の大会なので、準備は大変でしたが、通常の業務では経験できない貴重な経験をさせていただき、勉強になりました。

会員の皆様には、今年も何かとご協力等お願いする機会があると思いますが、その際はよろしくお願ひします。

私は、昭和五十三年に土地連に入会し、最初は、総務課に配属になりました。しかし、右も左も、「土地改良」という言葉さえわからず、日々緊張の連続でした。

それから、平成二年度には、経理課に異動になり、数字の苦手な私に

トが昨年の十一月に続けて亡くなり、現在少々落ち込んでおります。まず、「愛犬ジュン」が十一月二十一日に老衰のため（享年一〇〇才位）、それを追うように、十一月三十日には猫の「おにぎり」が病気のため（享年二〇才位）亡くなりました。たかがペットと笑われそうですが、家族の一員としてかわいがっていたので、寂しい限りです。特に、「おにぎり」は私になつており、我が子同様（我が子は娘ばかりで、唯一の息子でした）だったため、思ひ出してはぼーっとしています。二匹とも成仏してくれることを祈ります。

たわいもないことを書き、まとまりのない文章になつてしまいましました。会員の皆様には、今年も何かとご協力等お願いする機会があると思いますが、その際はよろしくお願ひします。



# 平成21年度視察研修



水土里ネットはさまがわ

水土里ネットはさまがわは、受益市町村は登米市・遠田郡の5町（迫町、南方町、米山町、豊里町、涌谷町）、組合員数は3,873名。

二十一世紀土地改良区創造運動では、管内の小学校や地区の子供会を対象に、農業用水利施設の役割とゴミ問題啓発として、見学会・出前講座等を行っており、今後の取組方向としては、組織運営部会をはじめとする「迫川沿岸土地改良区二十一世紀創造運動システム推進協議会」を中心活動を実施するということです。

水土里ネット河南矢本は、受益面積4,974ヘクタール、受益市町村は石巻市、東松島市、遠田郡涌谷町・美里町の2市2町、組合員数は3,561名。

「河南矢本土地改良区管理体制整備推進協議会」を構成し、農業水利施設の役割や多面的機能の發揮への

九月十日(木)～十一日(金)に、県外の模範的な農業農村整備事業を視察研修し、県内の事業推進の参考とする事を目的に、会員二十二名の参加により、宮城県の水土里ネットはさまがわ、水土里ネット河南矢本へ、『土地改良施設の維持管理と補修』、『二十一世紀土地改良区創造運動』

について研修に行つきました。

水土里ネットはさまがわは、受益

面積5,646ヘクタール、受益市町村は登米市・遠田郡の5町（迫町、南方町、米山町、豊里町、涌谷町）、組合員数は3,873名。

二十一世紀土地改良区創造運動では、管内の小学校や地区の子供会を対象に、農業用水利施設の役割とゴミ問題啓発として、見



水土里ネット河南矢本

地域住民の要請等に応えるべく、環境への配慮・安全管理の強化等について非農家の管理参画による組織化を進めてきたところ、地域住民の間に、施設を大切にする気持ちがでてきているとのことです。

今後は、農地・水・環境保全向上対策事業の強化とあわせて、活動をしていくということでした。



研修の様子

土地改良区の現状と重ね合わせながら熱心に研修されていました。

研修の感想もいただきましたので、ご紹介いたします。

454kmの用水路、  
819kmの排水路、  
118施設の揚水機

## 平成21年度視察研修を終えて

高郷土地改良区 後藤 学

平成二十一年九月十日から翌十一  
日までの二日間に行なわれたのは、

宮城県迫川沿岸土地改良区（登米  
市）及び河南矢本土地改良区（石巻  
市）での意見交換を通じた研修であ  
りました。双方の土地改良区とも合  
併により広域な区域となつており、  
国営、県営事業を展開し施設の維持  
管理においては、有する施設が多い  
ためこれらを包括的に管理するため  
の人材配置や作業効率軽減のための  
C.P.管理など先進土地改良区の粹を  
集めた内容であり、また21世紀創造  
運動の取り組みなどは、粹に囚われ  
ない独自の事業を展開しているとこ  
ろなどはこれから当区発展の取り  
組みとして大変貴重な意見交換とな  
りました。

この研修を通じ得たものとは、ど  
の土地改良区についても基礎（運営  
業務）は同じで、21世紀創造運動な  
どは定義に基づき、この基礎の上に  
何を展開していくものかだと思いま  
す。地元に置換えると高齢化などに  
より農業が衰退してきているため、  
当区として今出来ることは何かを改

めて考えてみるべきであり、将来を  
担っていく子供たちに農業の魅力を  
伝えていくことや、失われつつある  
自然のすばらしさなどを体験学習を  
通じて伝えていくためのノウハウと  
して大変勉強になり、土地改良施設  
の有する多面的機能の働きも併せて

教えていくのに研修で大変役立ちま  
した。また、こういった21世紀創造  
運動の取り組みには役職員が一丸と  
なつて進めていくと同時に組織造り  
も重要であると改めて認識させられ  
ました。

最後になりますが、研修に携わっ  
た土地連の担当職員様並びにこの研  
修会に参加された会員皆様には大変  
お世話になりました。

## 視察研修に参加して

小川町土地改良区 佐藤あや子

ました。

私は県土地改良団体職員連絡協議  
会主催による視察研修に、去る九月  
十日から十一日の二日間初めて参加  
させて頂きました。

一日目は宮城県登米市の迫川沿岸  
土地改良区、二日目は石巻市にある  
河南矢本土地改良区でした。両土地  
改良区とも広大な低平地帯にあり、  
用排水の便の悪さや水害からの解消  
の為の各種水利事業を行い、それら  
の事業により造成された施設の維持  
管理に努められています。また、地  
域の重複や重畠による組合員への負  
担の軽減や管理体制の一本化を求め  
複数の土地改良区の合併を実現され

出来ました。これは21世紀土地改良  
区創造運動を通して、近年の都市化、  
混住化に伴い農業水利施設の恩恵を  
受ける非農家の方々が次第に積極的  
に保全活動に参画していくたという  
お話からもわかりました。

この研修で、両土地改良区の皆様  
の土地改良事業に対する意識の高さ  
や熱心な取り組みに大変感心しまし  
たし、当土地改良区の現況と比較す  
ることが出来てとても有意義な二日  
間でした。また、参加された職員の  
方々が未集金回収や賦課金につい  
て、積極的に質問される姿もすばら  
しいと思いました。

最後に、ご一緒させて頂きました

職員の皆様との楽しかった時間を思  
い出に、この度の研修で学んだこと  
を今後の仕事に活かして行きたいと  
思います。参加されました職員の皆  
様そして事務局の皆様大変お世話に  
なりました。ありがとうございました。

## 県外研修に参加して

布藤堰土地改良区 川井 秀子

平成二十一年度の県外研修（先進  
地視察研修）に、今年度も参加させ  
ていただきました。

私にとりましては最後の研修でし  
たので、今までになく印象深いもの  
になりました。

第一日目の午後、最初の研修地「水土里ネットはさまがわ」（迫川沿岸土地改良区）では、課長さんから説明をいただきましたが、特に、興味深かつたのは、用排水の便が極めて悪い北上川と迫川の遊水地帯だった一帯を十五年の歳月をかけ、国営水利事業として完了し、その後、努力に努力を重ねられ三つの土地改良区の合併が、平成六年に実現を見たということでした。それだけでも驚きですが、組合員数が三、八七三名の大世帯になつたと知り、二十七名の職員で組合員への対応に取り組んでおられるに感心いたしました。

第二日日の研修は、午前中に予定通り「水土里ネット河南矢本」（河南矢本土地改良区）で、理事長さんのご挨拶ではじまりました。

この地域は、戦前から用水改良事業に意を用いてこられたそうです。が、農業形態の進展に伴い水の需要が増大し用水不足になり、抜本的な基盤整備も出来ず、生産性の極めて低いしかも不安定な営農を余儀なくされてきたことを、いたいた資料で知り、これらの状況を解消するため事業を続けてこられたご労苦に思ひをはせました。合併が認可された河南矢本土地改良区の運営が軌道に

乗り、大きな成果をあげられる日が近いことを実感いたしました。また、宮城県のこの地方は、我が福島県内や会津で見聞きする土地改良区の規模とは比較にならないほど大きな組織・組合員数であることも驚きでした。

不勉強な私には、将来の日本農業がどの様な姿になるのか想像もつきませんが、いつの研修でも、参加された県内各地の土地改良区を支える職員の方々の姿勢や行動が、とても印象的でした。

お陰様で参加者相互の懇親も深まり、本当に有意義な研修になつたことを心から感謝申し上げます。有難うございました。

しかし、米価の低迷と農外収入も減少する中で、賦課金の納入率が九九%台をキープしているということは、それだけの賦課金を支払う価値、組合員の方が土地改良区の仕事に対する満足度がそのレベルにあり、また、二十一世紀創造運動を通じて土地改良区との距離感が近いということだと思います。

このような関係を築き上げるには、職員が質の高い仕事をすることはもちろんですが、重要なのは組合員が信頼できる人格者を理事として選出し、理事者は善管注意義務を全うして公正で公平な運営を行う。これを継続することだと改めて感じたところです。

最後に、この研修に際してご腐心いたいた柳内会長、八巻課長、斎藤さんに感謝申し上げます。

職員の方々の熱心な研修態度に圧倒されて参りました。

このように、やる気十分な職員の方々がおいでになる限り、土地改良区は大丈夫という安心感が先に立ちます。

お陰様で参加者相互の懇親も深まり、本当に有意義な研修になつたことを心から感謝申し上げます。有難うございました。

職員連絡協議会会員の皆さんには、日頃よりいろいろとお世話になつておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

さて、平成二十一年度の視察研修に参加させていただきましたが、柳内会長より「むつみ」への感想文の寄稿依頼が予想通り届きました。実は、昨年も依頼があつたのですが、締切日をとうに過ぎてから思い出しあたため、依頼に応えることができませんでした。近年、どうでもよいことは鮮明に記憶に残り、大事なことの記憶は曖昧模糊としている、といふことが徐々に、確実に増えている

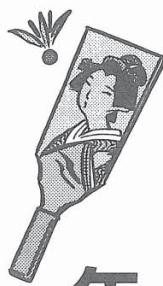
職員の方々の熱心な研修態度に圧倒されて参りました。

このように、やる気十分な職員の方々がおいでになる限り、土地改良区は大丈夫という安心感が先に立ちます。

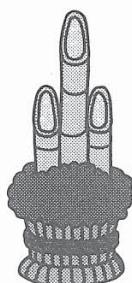
職員の方々の熱心な研修態度に圧倒されるため単純比較はできませんが、コメの反収比較からしても会津方部より土地改良区費は高い水準です。（全体的に会津方部の賦課基準額は低い）

しかし、米価の低迷と農外収入も減少する中で、賦課金の納入率が九九%台をキープしているというこ

とは、それだけの賦課金を支払う価値、組合員の方が土地改良区の仕事に対する満足度がそのレベルにあり、また、二十一世紀創造運動を通じて土地改良区との距離感が近いと



## 年男・年女



### 桜街道

水土里ネット社川沿岸  
山寺

今年こそは、上昇する日本であつて欲しいと強く願つているのは、私だけではないと思います。

平成二十一年十二月五日に「第四回日本櫻学会研究発表会」で「表郷環境ネットワーク」会長 根本 清さんが発表をしました。と書くと訳のわからない話題になってしまい

ますが、「平成の大合併」で白河市と合併した表郷村の閉村記念に植えた桜の木の生育状況についての調査・研究です。最初に根本会長は農林水産省の研究員だった方で、退職後に実家のある表郷に戻つてこられました。

「表郷環境ネットワーク」とは、日本ではここでだけ生育が確認されている「びやっこい」の保護など地域の環境保全のために活動しているボランティア団体です。

発表会の話に戻りますが、「桜街道」を造り新しい桜の名所にしようと財団法人「日本さくらの会」より三百本の「オオヤマサクラ」を寄贈を受けて平成十七年十月二十九日に植樹後、現在まで「樹高・幹周り・側枝数」の変化を土壤別に測定、整理したものでした。さすがに研究員だつた方ならではの視点で席上でも好評を博したとの事でした。桜を植えて四年が経ちました。草刈りは、年三回程度行なっています。植えて

今年私は、四回目の年男、さすがにうれしいとか、待ち遠しかつたりするものではありませんが、ふと考えました。今までの人生とこれから的人生を比べるとこれから的人生の方が短い事に気付きました。定年まで今の職にとどまる事ができたとしても十数年。（すでに二十年以上お世話になつています。）生涯だつてこれからさらに四十八回の誕生日を迎えることは相当難しい（たぶん無理）。と言うことは、明らかに折り返しを過ぎて居るどころか三分の二を過ぎて居る事に。

と言うわけではございませんが、幸いにも当地域には、地域を元気にするためにみんなで盛り上げようとしている方々が大勢いて色々な会やイベントを行なっています。本業を

新年早々、恐縮ですが昨年六月に主人の母が他界しました。私が嫁に来た時には、すでに五十代頭で夫を亡くし、母一人息子一人の生活でした。結婚をする前のことが母の「中通り」の南部「表郷」にお立ち寄り下さい。

直ぐには、枝を折られるなどの悲しい出来事もありました。桜の花はまだ少し咲きませんが、みんなで花見が出来るのを楽しみに手入れしております。

今年私は、四回目の年男、さすがにうれしいとか、待ち遠しかつたりするものではありませんが、ふと考えました。今までの人生とこれから的人生を比べるとこれから的人生の方が短い事に気付きました。定年まで今の職にとどまる事ができたとしても十数年。（すでに二十年以上お世話になつています。）生涯だつてこれからさらに四十八回の誕生日を迎えることは相当難しい（たぶん無理）。と言うことは、明らかに折り返しを過ぎて居るどころか三分の二を過ぎて居る事に。

最後までお読み頂きましてありがとうございました。そして、今年もよろしくお願ひします。

### 感謝の気持ち

会津大川土地改良区  
阿部美紀子

と書くと訳のわからない話題になってしまい

ですが二年前に勤続二十年表彰を受け、あの時に「二十年を振り返る」をタイトルに寄稿を載せて頂き、今回は何を書こうか迷いながらペンをとりました。

新年早々、恐縮ですが昨年六月に主人の母が他界しました。私が嫁に来た時には、すでに五十代頭で夫を亡くし、母一人息子一人の生活でした。結婚をする前のことが母の「中通り」の南部「表郷」にお立ち寄り下さい。

日々オルゴール付きアクセサリー入れをプレゼントしたら「子どもから

プレゼントなんて貰った事がない。  
娘が出来たみたい」ととても喜んでくれました。それ以来毎年かかさず母の日と誕生日には、贈り物をしていました。

人を使って、仏壇の部品作りをしていたので工場を切り盛りし、息子を育てながら田畠を耕作し、人は負けたくないと本当に働く人でした。歳と共に介護が必要となり、共働きでしたので日中はデイサービスで過ごし、土・日曜は家で過ごす生活が四、五年続きました。

最後は、車イスでの生活になり家中の生活は大変でしたがヘルパーさんに助けられ、最後まで家で生活させてやることができ、本当に良かったと思います。

私には娘が三人いますが、母は子供たちをよく面倒をみて育ててくれました。感謝の気持ちで一杯です。最後のお別れの時は、「長い間ご苦労様でした。ありがとうございました。」涙が止まりませんでした。

今、核家族が多く、最初は二人で生活し後で一緒に暮らせばいいとか、別々の方が楽だとよく聞きますが私は一緒に住めば、子育てで自分に余裕が無いとき手助けをし

てもらつたりとお互い助け合って、面倒見て貰ったと思えば、こちらもその気持ちでお返しをする気持ちで接すると思うのです。仕事も同じ自分で協力しあつてできる今の職場は、最高です。

私も寅年、後一回りすればその頃には、定年を迎える年になります。自分では、人生の折り返し地点は過ぎたとは思いますが、これから仕事をも生活もやらなくてはいけないことが山積みなのも事実ですが、いかにこれから充実した人生をおくれるかが課題です。



## 夏祭りの 寄付金集め

水土里ネット請戸川  
佐藤 公郎

また、むづみの寄稿依頼が来ました。前回はちょうど日本が、サッカーワールドカップに初出場した時でそのことについて書きましたが、改良区に就職して二年目で、何もわからぬ状態でサッカーのことしか書けませんでしたが、現在は仕事の内容も少しずつ分かってきました。当時はパソコンではなくワープロで書いた記憶があります。パソコンは今では会社の各机、各家庭に一台ある時代となり、私も勉強しまして、職場ではパソコンの操作方法等について、みんなに教えたりしています。また、事務所のホームページもつくつてみました。

しかし、この十二年の間に市街地と、

自宅の間に大きな格差が出来てしましました。自宅ではインターネットが出来ない、地デジが映らない、携帯電話が圏外なのです。たとえば、色々なインターネットの便利さについてのテレビコマーシャルを見ると、田舎には無駄な放送だなど思い

ます。インターネットの会社から新しいサービスが開始されるとセールスの電話がかかって来ると思いますが、喜んで申込みをすると後日、あなたの家は基地局から遠いので出来ませんといつも逆に断られてしまう状況です。というわけで自分のパソコンは持つていません。ちなみに田んぼの用水は十分来てています。そんなに山奥ではないのですが、いつになつたら世間に追いつくのでしょうか?心配です。都会と田舎の差がかなり出てきていると思います。憧れは自宅で無線LAN、ついでに子供の写真や動画の編集をしてみる。

今年の抱負は、3月で十数年務めた消防団を退団する予定となつておりますので、それまでは十分消防活動をし、また、芸能保存会の会計が4月からの予定なので、みんなが楽しみにしている夏祭りには、毎年恒例の盛大な花火大会を成功させたいと思います。

「出会い」も時には人だけではなく、日々のなにげない言葉だつたり、音楽だつたり、野に咲く花だつたりもします。

昨年も多くの方々との出会いがあり、それぞれの出会いから多くの気づきを得ることができました。様々な人々との恵まれた出会いは、自分の見方や考え方がいかに一面的であつたかを気づかされることが多く、すべての出会いに感動すると共に、多くの方々に支えられているという感謝の気持ちでいっぱいの一年でした。

新年明けましておめでとうござい

ます。

私たち人間が目の前のことには悩んだとき、自然に触ると心が癒されることは「嵐の日も晴れの日もあるよ、それが自然なのよ」と当たり前のことを自然が教えてくれるからなのでしょうか。巨木は、日常の感傷からさらに時間軸を広げて遠い未来に思いを馳せさせてくれます。自然の織り成す四季折々の情景を取り混ぜながら、人が生きるべき指針を示そうとしているかのようです。

また、人生の折り返し地点を過ぎて感じられることは、自分を肯定してのままの自分を愛せる人はまわりの人にも穏やかでやんわりと優しくできる心の余裕を持ち合わせられるのだろうと思います。生きがい、志、人生の目標など一本の芯が通つ

## 『水を汚す油も 良く見れば 虹色』

飯館村土地改良区  
川村 初子

取り分け自然は偉大です。木々たちは、まだ寒い冬のあいだから芽を出し、早春から初夏にかけて蕾を育て花を咲かせ、やがて青々と葉を茂らせて太陽の恵みを受け、幹を太らせ枝を伸ばします。そして、晚秋となり太陽が低くなると、つかの間の紅葉を残して葉を落とし、ひつそりと次の一年に備え始めます。しっかりと大地に根っこをはらせて、その厳しい変化の中で美しさを生み出すのだから…。

人生の根本にあるものは人と人の関わりが大切で相手の話を心の中に耳を持ち聞くことの大切さ、様々な出会いの中で私たちは生かされることを感じながら、今年の個人テーマは『水を汚す油も良く見れば虹色・よく見る・じっと聞く』として激動の社会の流れの中で人生に必要な種をまき、心の畑を耕しタイムラグがあることを忘れずにゆっくりとゆっくりと『育自』をしていきたいと思つております。



土地改良区職員として  
江花川沿岸土地改良区  
安田 勝男

土地改良区の職員として五ヶ月が過ぎ、朝夕は気温の差が大きく変る十二月となりました。今回新会員より一言抱負又協議会へ要望という事で書いて見ました。

七月より勤務し九月には視察研修に参加致しました。業務の内容が具体的に見えない中で一部不安でもありました。隣の県であり関心を持つて出席し、各地の改良区の方々と個々の内容を自分の目で見る事が出来た事は今後当改良区の運営の面で大変参考になりました。

土地改良区職員として  
江花川沿岸土地改良区  
安田 勝男

土地改良区の職員として五ヶ月が過ぎ、朝夕は気温の差が大きく変る十二月となりました。今回新会員より一言抱負又協議会へ要望という事で書いて見ました。

土地改良区職員として  
江花川沿岸土地改良区  
安田 勝男

# 新会員のみなさんより

今後の維持管理が大変であるとの事であります。この事は両改良区だけのことではなく、私の改良区も同じであります。施設、機械、いずれは古くなります。その時期に充分検討して行きたいと考えます。

話は変わりますが最近の新聞・テレビの中で環境の問題が特にクローズアップされています。一人一人が関心を持つようになつた事は大変良いことです。いずれにしても基本は水があつての事。農業、日常生活の維持である。近くの河川に目を向けると水が大変きれいになつて来ました。川の中の生きものが今までよりは増えています。

環境の変化は今後ますます多様化して行きます。先人の方々が残した文化、社会生活をもう一度振り返えります。矢吹原土地改良区発展のために全力を尽くす覚悟であります。私が矢吹原土地改良区の採用試験を受けた時が、まさに不景気時代への突入でした。私の大学卒業の時期が近づくにつれ、景気が悪くなり、就職難の時代にみまわれました。「内定取消」などが社会問題になり、職を失つてしまつた人も増加しました。うです。その厳しい世情において、

矢吹原土地改良区に就職し働くことができるということは、何にもまして光榮なことであると思います。  
私は今庶務係として、主に賦課金に関し職務を担当し、賦課金の調停や未収賦課金の徴収などの財務に従事しております。また、組合員名簿や土地原簿の修正・管理、各委員会とになりました、井上（いのうえ）葵裕（ちひろ）と申します。よろしくお願い致します。

就職してから既に八ヶ月以上が経ち、時の流れの早さになかなか体がついていきません。一日一日が早く感じ、このままでは定年退職まであとわずかではないかと思つてしまふのも無理はないでしょう。去年までは大学生として勉学に励んでおりましたが、今年からはそれまでの学生気分を一新し、一社会人として勤労意欲を燃やし、矢吹原土地改良区発展のために全力を尽くす覚悟であります。これからも同期の関根（せきね）拓哉（たくや）さんと切磋琢磨し、矢吹原土地改良区の未来の担い手として、日々精進したいです。まだまだ至らないところがたくさんござりますが、先輩方のご指導を仰ぎ、一日でも早く貢献できるように、精一杯努力して行きたいと思います。これからもどうぞよろしくお願ひ致し

## 土地改良区職員となつて

矢吹原土地改良区  
関根 拓也

こんにちは。矢吹原土地改良区の  
関根拓哉と申します。

当局で勤務し始めてから、早いもので半年以上が経過しました。新卒でこの職業に就いた私は右も左も分からず、不安でいっぱいでした。当局関係者のみなさんにはいつもご迷惑をおかけしてばかりだったと存じております。知らないおばあちゃん（組合員の方）に訳も分からず怒られたのは初めての経験でした。今でも迷惑をおかけしてばかりで、勉強不足を日々痛感しているところで、最初の頃はそのようなことを感じている余裕もなかつたので、少しは成長できているのだろうと思つております。当局に新卒で新入職員が入るのは十数年ぶりのことなので、「近頃の若い者は・・・」などと言われないように、仕事面でも社会人としても早く一人前になつてみんなさんの期待に応えられるようになりたいと思つております。

職業に出会うまで、土地改良区という職業についてほとんど知りませんでした。実家が兼業農家で仕事を手伝うことは稀になりましたが、それら農業に用いられる水が、遠方から人工的な水路を通つてやってくることなどは全く知りませんでした。私たちが現在農業を営んでいられるのは、たくさんの人たちの想いや努力があつたからだということを初めて知りました。その壮大なスケールに感嘆すると同時に、自分の生まれ故郷なのに知らないことがたくさんあることに気づかされました。当局で働き始めて、大変だと感じることもありましたが、とてもやりがいのある仕事だと思っております。地域のことをもっと知ることができ、人々の温かさに触れ、ますます地元ですが、最初の頃はそのようなことを感じている余裕もなかつたので、少しは成長できているのだろうと思つております。当局に新卒で新入職員が入るのは十数年ぶりのことなので、「近頃の若い者は・・・」などと言われないように、仕事面でも社会人としても早く一人前になつてみんなさんの期待に応えられるようになりたいと思つております。

土地改良区の職員になり、もう少しありましたが、とてもやりがいのある仕事だと思っております。地域のことをもっと知ることができ、人々の温かさに触れ、ますます地元である矢吹町のことが好きになりました。そういう気持ちを忘れることが、最初の頃はそのようなことを感じている余裕もなかつたので、少しは成長できているのだろうと思つております。当局に新卒で新入職員が入るのは十数年ぶりのことなので、「近頃の若い者は・・・」などと言われないように、仕事面でも社会人としても早く一人前になつてみんなさんの期待に応えられるようになりたいと思つております。

最後に、問題が山積している現代ですが、日本経済の中でも伸び代があるのは農業ではないかと思つています。唯一の同期職員である井上葵裕さんとも切磋琢磨し、これからも人間として成長させて頂くことが出来るようにしたいと思います。

いう自覚を持つて、毎日の仕事に打ち込んでいく所存であります。これからもご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

## 土地改良区職員になつて

会津北部土地改良区  
遠藤 龍輔

会員の皆様はじめまして、今年度より会津北部土地改良区の職員として働かせていただいている遠藤と申します。

土地改良区の職員になり、もう少し働いて、大変だと感じることもありましたが、とてもやりがいのある仕事だと思っております。地域のことをもっと知ることができ、人々の温かさに触れ、ますます地元である矢吹町のことが好きになりました。そういう気持ちを忘れることが、最初の頃はそのようなことを感じている余裕もなかつたので、少しは成長できているのだろうと思つております。当局に新卒で新入職員が入るのは十数年ぶりのことなので、「近頃の若い者は・・・」などと言われないように、仕事面でも社会人としても早く一人前になつてみんなさんの期待に応えられるようになりたいと思つております。

最後に、問題が山積している現代ですが、日本経済の中でも伸び代があるのは農業ではないかと思つています。唯一の同期職員である井上葵裕さんとも切磋琢磨し、これからも人間として成長させて頂くことが出来るようにしたいと思います。

思っていた事、各土地改良区が抱えている問題や農家の方々が抱えている問題についてお聞きする事が出来ました。まだまだ右も左も分からないような私にとって、とてもいい機会を作つて頂いたと思います。その中で地域密着型の土地改良区という事でより現場に近く、地域の方々と一緒になつて考えなければならぬとお聞きしました。私は集金などで組合員の方とお話しする機会が多く、改めてコミュニケーションの大切さを知ることが出来ました。また、賦課金の必要性について組合員の方に明確な理由を説明するという事がして一年が過ぎようとしているところです。私は、賦課徴収係として日々業務しております。賦課の仕事をしていく中で組合員の方々とのコミュニケーションの大切さ、説明する力の大切さを感じております。しかし、まだまだ説明不足になつてている部分や伝わりきれていない部分などがあると思います。今は、先輩方の行動や言葉を参考に少しでも業務に役立てるよう勉強させて頂いているところです。

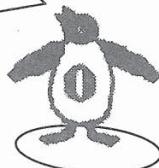
先日、会津水土里ネット初期職員研修会に参加させて頂きました。初めて聞くような話や今まで疑問に出来るようにしたいと思います。

# T 大丈夫？インフルエンザ M

豚由来の新型インフルエンザが全世界に拡大しています。

鳥からのH5N1型（強毒性）の発生も時間の問題と言われています。

予防は治療に勝ります。人ごみの中でのマスク、帰宅後の手洗い、うがいなどの予防策は皆さんすでに実践されていることだと思いますが、自分や家族、職場の仲間を守るために日常生活でできる予防法を再確認していただければと思います。



## 日常生活でできる予防方法



### 1. 手洗いとうがいの励行

手洗いは接触による感染を、うがいはのどの乾燥を防ぎます。

手洗いは習慣化しやすいですが、うがいはどうですか？

うがいのタイミングは、

- ・帰宅時
- ・人ごみから出た後
- ・のどが乾燥したとき、調子が悪いとき
- ・空気が乾燥しているとき
- ・口腔内の菌数が1日のうち一番多くなる、朝起きたとき、などです。

健康管理には毎日定期的に！

休憩時やトイレに行ったときなど、毎日数回のうがいが習慣になることが大切で効果的ですよ！



### 2. 人ごみを避ける

病原体であるウイルスを寄せ付けないようにしましょう。  
外出時にはマスクを着用すると良いでしょう。





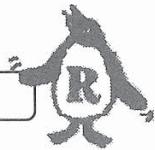
### 3. 適度な温度、湿度を保つ

ウイルスは低温、低湿を好み、乾燥しているとウイルスが長時間空気中を漂っています。

室温は20~25度、湿度は50%が適当でしょう。

適度な湿度を保つために、加湿器を利用したり、濡れタオルや洗濯物を干すのも有効です。

また、定期的な換気を心がけましょう。



### 4. 栄養と休養を十分取る

体力をつけ、抵抗力を高めることで感染しにくくなります。

バランスの良い食事と、十分な休養を取り、疲労を避けましょう。

自己免疫力を上げる代表的な食材は、高麗人参ですが、ショウガやにんにく、ねぎ、唐辛子、大葉、山芋なども普段の食事に取り入れやすい免疫力アップ食材です。  
ベータグルカンが豊富なキノコ類や大麦もお勧めです。

炎症を解消して安定化をはかる働きのある酵素を含む生の食材、生野菜や果物、お刺身なども普段の献立に意識して取り入れるといいですよ。中でもバナナやキウイ、パイナップルやパパイヤ、野菜ではきゅうりやタマネギ、ダイコン、トマトなどもお勧めですよ。



もし、インフルエンザにかかったら…

◇早めに医療機関を受診して治療を受けましょう。

◇水分(ジュース、スポーツ飲料、スープなど)を十分に補給しましょう。

◇安静にし、十分な休養を取りましょう。



# 活力ある農業、農村づくりをお手伝いします

## 水土里ネット福島はみなさんのパートナーです!

### 農業農村整備事業の調査・設計・施工管理

農業農村整備事業等は国及び県の補助事業として実施されるため、その調査・設計・施工には、関係機関との協議・調整の下、技術基準の適合性、経済性の説明が求められます。

本会は、この支援に長く携わっており、高い技術力と経験を備えております。今後とも、より一層の会員サービスに努めてまいります。

### ほ場整備事業の支援

ほ場整備事業においては、計画から実施設計、換地処分までを一体的な業務と捉え、技術支援を行ってまいります。

計画策定においては、換地計画を見捉え、権利者や関係機関との連携により、地域実情にあった計画樹立に努めております。

### 農業集落排水事業の支援

農業集落排水事業においては、調査・計画・実施・施工管理・維持管理のすべての業務に一貫して携わり、経験豊富な高い技術力を備えた技術者が多数おります。

関係機関との連携の下、適切な処理方式の選定など地域の実情に即した提案に努めてまいります。

### 農地・水・環境保全向上対策や地理情報システムへの取り組み

農地・水・環境保全向上対策や地理情報システム(GIS)の構築など新たな事業に、これまでの技術や経験の蓄積を活かして積極的に取り組み、関係機関との連携の下、地域農業の発展や農業農村の振興に貢献するとともに、農業用用排水施設の維持管理(ストックマネジメント)支援にも努めております。



### 水土里ネット福島の登録内容

- ISO9001:2000/JIS Q 9001:2000(H21.2.16付、登録証番号JQA-QMA13143)
- 建設コンサルタント(H17.12.3付、建17第7079号、農業土木部門)
- 一級建築士事務所(H19.4.9付、第11(904)1975号)
- 計量証明事業登録(H7.7.3付、第環34号)
- 測量業者登録(H17.6.2付、登録第(2)-26856号)
- 浄化槽保守点検業者登録(H21.5.14付、福島県知事登録第1353号)
- 産業廃棄物処分業(H17.11.18付、許可番号0720122234号)
- 農業農村整備事業発注者支援機関認定(H18.10.16付、第0606号)



みどり  
水土里ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

〒960-8502 福島市南中央三丁目36番地

TEL:024-535-0371 FAX:024-535-1200

<http://www.midorinet-fukushima.jp/> E-mail:info@midorinet-fukushima.jp